



「ゴールデンエイジ」をめぐる思い

校長 関原 秀明

この言葉の意味を初めて知ったときは、「なるほど!」と思いました。
人には、運動能力が高まり、難しい動作も比較的容易に覚えることができる運動学習適齢期があり、それを「ゴールデンエイジ」と言うそうです。

例えば、サッカーにおいては、10歳から12歳頃が必要なスキルの獲得に最適な時期とされています。また、12歳頃を超えると言語（母国語）を身に付けるのが難しくなる、絶対音感（聞こえた音の音名が分かる能力）は6歳を超えると身に付けるのが難しくなるなど、運動ばかりでなく、言語や芸能に関しても適した年齢があると言われています。

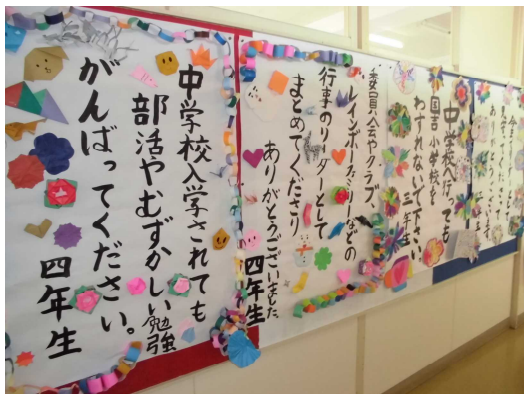
私事ですが、スマートフォンを持ち始めて一年ほどになります。未だに操作に苦勞し、機能のほんの一部しか使えていない現状は、ゴールデンエイジを逃した(?)のかもれません。それに比べ、中学校卒業と同時に携帯電話を持ち始めた、20代の我が子の操作の速いこと、機能に詳しいこと、到底かないません。時期を逃すと何か新しいことを身に付ける苦勞を実感しています。

一方で、このゴールデンエイジの考え方ですべて割り切られることにやや抵抗も感じます。多方面でその理論が唱えられているとは言え、「発達には個人差があるだろうし、大切な時期を過ぎてからとって努力しても無駄だとあきらめたり、それを努力しない言い訳にしたりするのはいかがなものか、何歳になっても能力を伸ばしている人はいくらでもいるではないか」と。

適切な時期を知って、その時に子供たちが最大限努力できるように大人が働きかけることはもちろん大切なことです。しかし、それと同じくらいに、年齢にこだわらずとも目標をしっかりとって、身に付けるための方法を工夫したり、努力を積み重ねることで自分の力を伸ばすことができると信じ、新しいことにチャレンジするよう励ましていくことも大切だと思います。

6年生24名が間もなく本校を卒業します。卒業を控えたこの時期に、彼らは、6年間を振り返って、多くの人に感謝したり、新しい生活に希望を抱いたりしています。日本の学校の制度上12歳で小学校卒業という儀式を迎えますが、その年齢が、精神的に大きく成長するゴールデンエイジなのかどうかは定かではありません。しかし、卒業という節目の儀式が彼らをそうさせるのであって、成長のきっかけは周りの環境や本人の心のもち方も大きく関わっているのではないのでしょうか。先月から、全校挙げて、6年生が気持ちよく巣立っていけるよう準備をしています。それを感じて気持ちを高めている6年生は、明後日、胸を張って巣立っていくことでしょう。

24名に幸あれ、と祈ります。



卒業を祝うムードが高まっています。

学校生活の様子から

○「卒業を祝う会」が開かれました。(3/3)
感謝の気持ちと笑顔があふれる集会となりました



ご案内

- 卒業証書授与式を17日(金)の午前10時より行います。
(保護者の方は、9時30分までにご来校ください。)
- 卒業式の模様(ダイジェスト)が高岡ケーブルテレビチャンネル9で放映されます。18日(土)~20日(祝)の3日間、14:36分頃からです。お見逃しのないように。

○改修工事が進んでいます。
＜体育館トイレの洋式化＞



＜放課後児童クラブ室＞

